

| | | | | | | | |
|--------------------|--|---|----|-----|-----|------|----|
| 科目名 Course Name | 情報システム Theory of Information System | | | | | | |
| 年次 | 2年 | 期別 | 後期 | 単位数 | 2単位 | 授業形態 | 講義 |
| 担当者氏名 | 長江 庸泰 | | | | | | |
| 連絡先(質問等) | メールにて対応、オフィスアワー:本館2F(研究室 1)月～木曜 9:00～16:00(授業・会議時間を除く) | | | | | | |
| 必修/選択 | 選択 | | | | | | |
| 関連 DP | DP2,DP3,DP5 | | | | | | |
| 授業の概要と到達目標 | <p>情報システムの開発技術や工程管理、そしてサービスの変遷を理解し、情報化社会におけるシステムの現状や今後の方向性について学習を進めるとともに、情報と企業の関わりや、情報に関する企業人としての在り方など、情報化社会に至る歴史を展望し、情報社会・情報産業の実態について学び、次に、企業・組織における情報の取り扱いについて、企業組織、人事・教育、知的財産といった視点から概観し、さらに企業人として知っておきたい情報・データの基本的な取り扱い方法やプレゼンテーションの方法について学習する。</p> <p>①情報技術と企業の関わりや、情報技術に関する企業人としての在り方と諸活動を認識し、説明できるようにする。</p> <p>②企業・組織における情報の取り扱いについて、企業組織、人事・教育、知的財産といった視点から概観・体得することが出来るようにする。</p> <p>③実際のビジネス・シーンで役立つように、情報システムの理論を体系的に学び、論理的な思考と批判的な思考を行うことが出来るようにする。</p> | | | | | | |
| 授業の方法 | 本授業は、講義、マルチメディア授業、デジタルテキスト、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク等を活用しながら、情報システムに精通した人材育成を目指すものである。 | | | | | | |
| 学習成果 | L01 | | | | | | |
| | L02 | | | | | | |
| | L03 | <p>①情報技術と企業の関わりや、情報技術に関する企業人としての在り方と諸活動を認識し、説明できる。</p> <p>②企業・組織における情報の取り扱いについて、企業組織、人事・教育、知的財産といった視点から概観・体得することが出来る。</p> <p>③実際のビジネス・シーンで役立つように、情報システムの理論を体系的に学び、論理的な思考と批判的な思考を行うことが出来る。</p> | | | | | |
| | L04 | | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 小テスト・期末試験等の解答を示し、結果は、メール等で個別にフィードバックする。 | | | | | | |
| 教科書/参考図書 | 長江庸泰作成の“デジタルテキスト[情報システム 2020 年度版]”を活用する。 | | | | | | |
| 履修上の留意点やルール等 | 事前・事後学習各回 180 分、本学の教育理念(想う人、考える人、行う人を創る)を体現する自主創造の教えを基に、「1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、課題解決型のアクティブラーニング」を常に心掛けること。 | | | | | | |
| 担当教員の実務経験 | ●実務経験(職種:会社役員 職歴:40 年)、実務経験を情報システムの実践面と学習・説明等で活用する。 | | | | | | |

| 成績評価の方法と基準 | | | | | |
|------------|--|---------|-----|-----|-----|
| 評価の領域 | 評価基準 | 学習成果の割合 | | | |
| | | L01 | L02 | L03 | L04 |
| 授業参加態度 | 以下の3点から評価する:①ノートに関し、創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。S評価の基準:上記参加態度を全て満たすもの。 | | | 10 | |
| レポート/作品 | Sのレポートの評価:①創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に展開している、③課題の本質と学習成果が十分にまとめら | | | 30 | |

佐野日本大学短期大学 2020 年度シラバス

| | | | | | |
|-------------|--|--|--|-----|--|
| | れている。レポート最新課題は、月 1 回計 3 回提出予定(締切は各月末)。 | | | | |
| 発表 | Sのレポート発表評価:①創意工夫した発表となっている、②自分の意見をまとめながら論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。 | | | 20 | |
| 小テスト | 成績評価:S(傑出した内容)=90-100、A(平均を上回る内容)=80-89、B(平均的内容)=70-79、C(平均を下回る内容)=60-69、D(左記以外の内容)=0-59 | | | 20 | |
| 試験 | 成績評価:S(傑出した内容)=90-100、A(平均を上回る内容)=80-89、B(平均的内容)=70-79、C(平均を下回る内容)=60-69、D(左記以外の内容)=0-59 | | | 20 | |
| その他 | 上記評価基準に基づき成績評価:S(傑出した内容)=90-100、A(平均を上回る内容)=80-89、B(平均的内容)=70-79、C(平均を下回る内容)=60-69、D(左記以外の内容)=0-59 | | | | |
| 合 計 | | | | 100 | |

| 回数 | | 授業計画 |
|----|---------|---|
| 1 | 授業内容 | 授業ガイダンス:本授業の進め方と学び方/レポート課題説明と出題の解説、シラバスを読んでおき、各授業に関する質問事項等を考えておくこと。 |
| | 事前・事後学習 | 事前学習(上記質問事項等を準備しておくこと)・事後学習(ノートを整理しながら、自分で調べ・学ぶ姿勢を身につけること)。 |
| 2 | 授業内容 | 情報化社会の進展と情報システムの概要:情報化社会に至る歴史的展望<情報化にともなうビジネス環境の変化、情報化社会の課題等>。 |
| | 事前・事後学習 | 上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。 |
| 3 | 授業内容 | 日本経済の変遷と現状と情報システムの機能や技術の変遷:我が国の経済状況の変遷、産業構造の変容・実態・現状。 |
| | 事前・事後学習 | 上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。 |
| 4 | 授業内容 | 業務知識と情報システム:情報通信産業の現状、情報通信産業の人材の動向/(グループワークによるプレゼンとディスカッション①)。 |
| | 事前・事後学習 | 上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。 |
| 5 | 授業内容 | システム開発概要:小売業、流通業、製造業など。 |
| | 事前・事後学習 | 上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。 |
| 6 | 授業内容 | 企業の仕組みと情報活用(1):Web アプリケーション技術、情報化にともなって組織がどのように変容するかについて考える。 |
| | 事前・事後学習 | 上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。 |
| 7 | 授業内容 | 企業の仕組みと情報活用(2):プロジェクトマネジメント、人事考課、業績評価、企業内教育、資格等について学ぶ。 |
| | 事前・事後学習 | 上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。 |
| 8 | 授業内容 | UML とデータモデリング/(グループワークによるプレゼンとディスカッション②) |
| | 事前・事後学習 | 上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。 |
| 9 | 授業内容 | 社会・企業活動における情報の取り扱い方法(1):クラウドコンピューティング |
| | 事前・事後学習 | 上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。 |
| 10 | 授業内容 | 社会・企業活動における情報の取り扱い方法(2-1):ビックデータ、量的データの取り扱い方法について学ぶ。 |
| | 事前・事後学習 | 上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。 |
| 11 | 授業内容 | 社会・企業活動における情報の取り扱い方法(2-2):フェイルスタディ、クレーム対策等、質的データの取り扱い方法について学ぶ。 |
| | 事前・事後学習 | 上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。 |
| 12 | 授業内容 | 社会・企業活動における情報の取り扱い方法(3):戦略的企業経営と情報システム。 |
| | 事前・事後学習 | 上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。 |
| 13 | 授業内容 | 社会・企業活動における情報の取り扱い方法(4):るデータ・サイエンス①概要。 |
| | 事前・事後学習 | 上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。 |
| 14 | 授業内容 | 社会・企業活動における情報の取り扱い方法(5):データ・サイエンス②活用事例/(グループワークによるプレゼンとディスカッション③)。 |
| | 事前・事後学習 | 上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。 |
| 15 | 授業内容 | 社会・企業活動における情報の取り扱い方法(6):AI 技術と活用事例。 |
| | 事前・事後学習 | 上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。 |

